小樽市新総合体育館　基本構想（案）概要版

1　基本構想策定の背景と目的

本市においてスポーツ活動の中心的役割を果たす小樽市総合体育館（以下「現総合体育館」）は、日々、多くの市民が利用する施設であるとともに、災害時には多くの人員を収容する指定避難所であるにもかかわらず、耐震性能が旧基準のままであり、バリアフリー化も不十分です。また、旧室内水泳プールが平成19（2007）年6月に廃止されて以降、市内中心部に市営プールが無い状態が続いています。

こうした中、小樽市教育委員会では、「小樽市公共施設等総合管理計画」に基づき令和3（2021）年2月に策定した「小樽市公共施設長寿命化計画」において、総合体育館が再整備などの必要性が最も高いAグループに分類されたことを踏まえ、令和4（2022）年2月には「小樽市総合体育館長寿命化計画」を策定しました。同計画では、現総合体育館は、旧緑小学校跡地において、プール室を併設して再整備を行うこととし、整備に向けた基本的な考え方を示しました。

本基本構想は、市民の健康増進を推進する拠点となる新しい総合体育館（以下「新総合体育館」）の整備に向けて、上位・関連計画、本市の課題及び市民やスポーツ関係団体等のニーズを踏まえ、基本理念・基本方針を定めるとともに、大まかな規模・機能を明らかにし、新総合体育館のあり方について基本的な考え方を取りまとめます。

2　前提条件の整理

■現総合体育館の施設概要

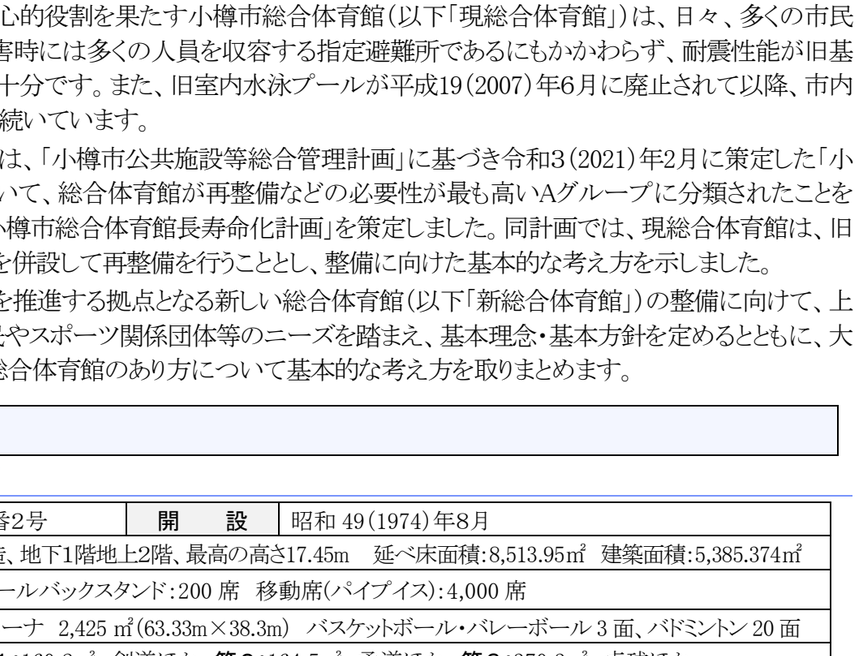
所　在　地	小樽市花園5丁目2番2号	開　　設	昭和 49（1974）年8月
構造・面積	鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階地上2階、最高の高さ17.45m　延べ床面積：8,513.95㎡　建築面積：5,385.374㎡		
収 容 人 員	固定席：2,150 席　ロールバックスタンド：200 席　移動席（パイプイス）：4,000 席		
主 な 施 設	主競技場	アリーナ　2,425 ㎡（63.33m×38.3m）　バスケットボール・バレーボール 3 面、バドミントン 20 面	
	第１～３体育室	第１：160.2㎡、剣道ほか　第２：164.5㎡、柔道ほか　第３：370.3㎡、卓球ほか	
	第４体育室	620.36㎡　体操、バスケットボール・バレーボール（1面）バドミントン（4面）など ※昭和61（1986）年に増築　体操用ピット有	
	トレーニング室	138.0㎡	

■高島小学校温水プールの施設概要

所　在　地	小樽市高島５丁目６番１号	開　　設	平成６（1994）年５月１日
面　　積	延べ床面積：1,059.936 ㎡	プールの規模	25m×6レーン（水深1.1～1.3m×5レーン、0.7m×1レーン）

■事業予定地の概要

新総合体育館の事業予定地は、「小樽市総合体育館長寿命化計画」において、新たに土地を取得する必要がないこと、建替えにより使用できない期間がないこと、中心部に位置して利便性が高いこと、海抜が高く（62.7m）防災拠点として適していることなど複合的な視点から、現総合体育館に隣接する「旧緑小学校跡地」を予定しています。



建設予定位置図

4　整備規模・機能

建築可能な面積で地上2階建てとすると、吹抜け部分を除く延べ床面積は最大で10,000㎡強となります。また、この面積に現在想定される諸室等を当てはめると、体育館とプール室の面積配分は、およそ右のとおりとなります。

【体育館】
・メインアリーナ　・サブアリーナ
・格技室　・多目的室　・トレーニング室
・観覧席　・ランニングコース
・キッズスペース　・会議室
・市民交流スペース　等
約7,100㎡

【共用部】
約1,600㎡

【プール室】
・プール
・採暖室
・観覧スペース 等
約1,500㎡

■主要諸室の概要

体育館	**メインアリーナ：**バスケットボール2面、6人制バレーボール2面、バドミントン6面、卓球12面相当
	サブアリーナ：バスケットボール1面、6人制バレーボール1面、バドミントン3面、卓球4面相当
	格技室、多目的室、トレーニング室、観覧席・ランニングコース、キッズスペース、放送室・器具庫等
	WC・更衣室（シャワー含む）、倉庫・機械室等
プール室	**プール：**25mプール、歩行用プール、幼児プールの3つの機能
	採暖室、観覧スペース、監視室、WC・更衣室（シャワー含む）、下足・倉庫・機械室
その他	会議室、市民交流スペース、事務・受付等・救護室、災害備蓄庫・発電機室・共用部等
延べ床面積　最大10,000㎡ 強	

5　概算事業費

概算事業費は、近年竣工又は計画中の公共体育館及び公共プールの工事単価を参考に、右記のとおり算定しています。しかしながら、近年建設単価の上昇が著しいことから、今後も必要に応じて見直しを行うこととします。

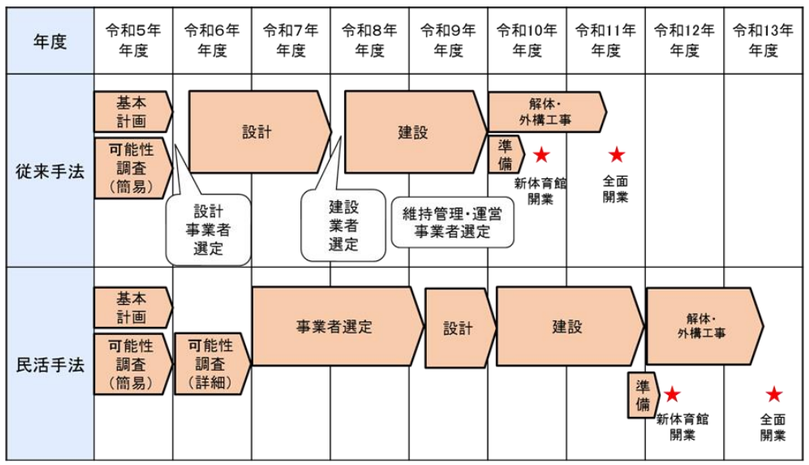
※概算事業費は令和4年11月時点のものです。

項　目		建設費（百万円）
建設費	体育館	4,438
	プール	991
	共　用	996
総計（税抜き）		**6,425**
総計（税込み）		**7,068**

※設計・工事監理費、解体費、造成・外構工事費、什器・備品費、測量・地質調査等の各種調査費等を含みません。

6　事業スケジュール及び今後の検討事項

■事業スケジュール



■今後の検討事項

施設計画の詳細な検討、公認プールの検討、適切な事業費の設定、事業手法の検討、財源確保の検討、事業スケジュールの精査、にぎわい創出の検討、再生可能エネルギーの導入検討、駐車場の在り方の検討が必要です。

令和 4（2022）年 11 月 25 日　編集：小樽市教育委員会
〒047-0034北海道小樽市緑3-4-1　電話0134-32-4111内線7415　https://www.city.otaru.lg.jp/

■新総合体育館整備における課題

（１） 人口減少・少子高齢化の進展、本市の厳しい財政状況

- 人口減少を踏まえ、将来に過大な負担とならない施設整備
- 高度成長期に建設された公共施設の更新
- 効率的・効果的な施設の整備、維持管理・運営

（２） 耐震性確保やユニバーサルデザインへの対応

- 建替えに合わせた十分な耐震性の確保
- 災害への対応（災害備蓄庫等の防災機能の整備）
- 施設の老朽化（外壁等のひび割れ、雨漏り、設備の使用中止等）
- ユニバーサルデザインへの対応

（３） その他の課題

- 省エネルギー及び再生可能エネルギーへの対応
- 駐車場不足への対応
- 市民の健康寿命延伸へ向けた、個人が通年で使用できる環境の整備

■新総合体育館整備に対するニーズ

【調査概要】

市民アンケート調査	調査対象：満18歳以上の市民2000人 回 答 数：郵送回答487件、WEB回答110件（うち有効回答105件）、計592件（回答率：29.6%）
スポーツ関係団体等アンケート調査	調査対象：小樽市総合体育館利用団体（29団体）、市内プール利用団体（11団体）、小樽スポーツ協会所属団体（28団体）、市内障がい者団体（5団体）、小樽市中学校体育連盟・高等学校体育連盟小樽支部 回 答 数：48件（回答率：64.0%）

【調査結果のまとめ】

●現総合体育館について

- 現総合体育館の不便な点として、「駐車場の不足」や「交通の便が悪い」が多く挙げられており、施設へのアクセスに関する改善が求められています。
- 体育館、プールともに、競技者以外の市民にはあまり利用されていない実態があり、誰でも気軽に利用でき、魅力ある施設への転換が求められています。

●新総合体育館の利用目的について

- 体育館については、市民アンケートでは、トレーニング・ランニング等、個人で気軽に取り組むことができる施設を求められており、団体アンケートでは、アリーナ（サブアリーナ含む）の整備が求められています。
- 体育館には、日常的なスポーツ活動に次いで、コンサート・イベント等のスポーツ外利用が求められています。
- プール室について、水泳プールの水深は一般に利用しやすい浅めの水深（1.1m～1.2 m 程度）、水泳プール以外に歩行用プールの設置を希望する回答が多くなっています。また、利用用途については、市民は健康増進が多く、団体では練習利用が多くなっています。

●新総合体育館に望む機能について

- 新総合体育館に望む機能としては、市民アンケートでは「災害発生時に避難場所や防災拠点となる機能を備えた体育館」を求める意見が最も多く、次いで「バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した体育館」「個人や少人数でも気軽に利用できる体育館」「将来を見据え、コスト削減に配慮した体育館」「省エネルギー・省資源に配慮した体育館」を求める意見が多くなっています。
- 一方、団体アンケートでは、「市民大会や地区大会などのアマチュアスポーツの大会が開催できる体育館」を求める意見が多くなっています。

3 基本理念・基本方針

■基本理念

新総合体育館の目指すべき姿を示したもので、整備の骨格となる考え方です。基本理念の検討に当たって、【1】上位・関連計画、【2】課題の把握、【3】アンケート調査から重要なキーワードを抽出し、大きく4つの要素に分類しました。

これらの4つの要素を踏まえ、新総合体育館の基本理念は以下のとおりとします。

❶スポーツ振興・健康　❷にぎわい・交流　❸安全・安心　❹持続可能

誰もが集い 未来へ続く 健康拠点

「誰もが集い」

❷ にぎわい・交流、❸ 安全・安心

まちのにぎわいを創出し、交流を育むとともに、ユニバーサルデザインに配慮し、
誰もが安全・安心に利用できる施設への思いが込められています。

「未来へ続く」

❹ 持続可能

小樽市の将来を見据えた、
環境にやさしい施設への思いが込められています。

「健康拠点」

❶ スポーツ振興・健康

日常的な運動の場として気軽に利用でき、市民の体力向上、
健康寿命延伸に寄与する施設への思いが込められています。

■基本方針

方針1 市民のスポーツ活動を推進し、健康寿命延伸に寄与する体育館

- 現在開催されている各種競技の大会に対応した機能
- 冷房設備の導入など、快適な競技環境
- ランニングコースの設置など、一人でも気軽にスポーツができる機能
- プール室を併設し、スポーツ施設の集約化による利便性の向上

方針2 気軽に市民が集い、多世代の交流を生み出す体育館

- 親子でも安心し利用できる機能
- 子どもが運動に親しみ、楽しく体を動かすことができる機能
- 子供からお年寄りまで、多世代が交流できる市民交流機能
- 各種イベントの開催機能

方針3 防災機能を備えた、安全・安心な体育館

- 災害時にも機能を維持することができる耐震性の確保
- 非常用電源や災害備蓄庫など、災害時の避難所機能
- 誰もが安全・安心に利用できるユニバーサルデザイン

方針4 環境に配慮し、将来を見据えた、持続可能な体育館

- 省エネルギー化及び再生可能エネルギーの活用
- 人口推計や現在の稼働率を踏まえた、効率的かつ適正な規模と運営